

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間のわが国経済は、イラク戦争や新型肺炎SARS流行による一時的な悪影響もありましたが、海外需要の改善により輸出の増加も見られ、個人消費は横這いで推移したものの設備投資も増加に転じ株価も上昇するなど、総じてやや持ち直し気味の展開となりました。米国経済もイラク戦争などの不安定要因から前半には悪化傾向が見られましたが、半ばからは企業業績回復期待から株価が上昇し、減税パッケージによる消費の持ち直しなど、明るい兆しが出てまいりました。

欧州の経済は、ユーロ高の影響で輸出と生産のペースが鈍化し、減速傾向が強まりました。アジアの経済は新型肺炎SARS流行の悪影響もありましたが、中国、タイの経済は好調に推移しました。一方、韓国、シンガポールでは景気後退の兆しが見られるなど斑模様の展開となりました。

当社製品の主要顧客である情報通信機器関連業界は、前中間期には在庫調整の一巡に伴う著しい需要回復がありましたが、当中間期は世界経済が持ち直し傾向の中、前期後半に低迷した需要も順調に回復しました。しかし、価格競争はますます激化し、厳しい状況で推移しました。

当社はかかる経営環境下で、拡販を進めると同時に販売、生産活動の一層の効率改善によるコスト削減や、品質の向上及び高付加価値製品の開発に努めました。この結果、売上高は133,741百万円、営業利益は9,467百万円、経常利益7,558百万円と前中間期に比べそれぞれ3,507百万円（ 2.6%）、708百万円（ 7.0%）、108百万円（ 1.4%）減少いたしました。中間純利益につきましては、取締役会改革（定員数の削減）に伴う役員退職慰労金431百万円、早期退職者募集に伴う特別退職金307百万円を特別損失として計上したこと、及び税効果会計による法人税等調整額に1,376百万円を計上いたしました。2,726百万円と前中間期に比べ183百万円（ 7.2%）増加いたしました。

事業の種類別セグメント業績を示すと、次のとおりであります。

機械加工品事業

機械加工品事業は、当社の主力製品であるボールベアリングの他に、主として航空機に使用されるロッドエンドベアリング、ハードディスク駆動装置（HDD）に使用されるピボットアッセンブリー等のメカニカルパーツ、自動車及び航空機用のネジ、及び防衛関連製品等が含まれております。前中間期に比べ、ボールベアリングの販売は、情報通信機器関連業界向け、自動車関連業界向けは減少いたしました。家電業界向けは好調で総じて堅調に推移しました。

また、ロッドエンドベアリングは米国の同時多発テロ以降、主力市場である航空機業界よりの需要の低迷が続きました。一方、ピボットアッセンブリーの販売は、PC関連業界の需要の回復傾向が見られ順調でありました。円高の進展や価格競争の激化もあり、売上高は55,665百万円と前中間期比4,644百万円（ 7.7%）の減少、営業利益は9,178百万円とコスト削減効果により前中間期比15百万円（ 0.2%）の増加となりました。

電子機器事業

電子機器事業は、HDD用スピンドルモーター、ファンモーター、ステッピングモーター等の各種精密小型モーター、キーボード、スピーカー、スイッチング電源、ライティングデバイス及び計測機器が主な製品であります。

主要客先であります情報通信機器関連業界からの需要は回復が見られましたが、受注獲得競争はより厳しさを増した感がありました。このような中で、HDD用スピンドルモーター、及びライティングデバイスは好調に販売を伸ばし、ファンモーターも堅調に推移いたしましたが、前年度第3四半期にフロッピーディスクドライブ（FDD）の事業を終了したこと、ステッピングモーター及びキーボードの販売低迷が加わり、売上高は78,076百万円、営業利益は289百万円と前中間期に比べそれぞれ1,136百万円（1.5%）の増加、724百万円（71.5%）の減少となりました。

所在地別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

日本地域

日本地域は、景気の持ち直し傾向が見られたものの、FDD事業の終了や多くの顧客が厳しいデフレ圧力に対応するため、生産品目を海外の子会社に移転するなどの影響があり、売上高は32,826百万円と前中間期に比べ5,506百万円（14.4%）の減少となりましたが、営業利益は1,831百万円と前中間期に比べ680百万円（59.1%）の増加となりました。

アジア地域

アジア地域は、日本、欧米のパソコンや家電製品メーカーの生産拠点として重要な地域であります。日本、欧米の情報通信機器関連業界よりの需要の回復や、日本及び欧米の顧客による生産品目の当地域への移転の影響もあり、販売は堅調に推移いたしました。一方、当地域の生産拡大に合わせて価格競争も激化しております。この結果、売上高は61,872百万円と前中間期に比べ9,881百万円（19.0%）増加いたしました。一方、営業利益は6,579百万円と前中間期に比べ605百万円（8.4%）減少いたしました。

北米・南米地域

北米・南米地域は、キーボード、スピーカー、及びファンモーター等の電子機器の販売が総じて低迷したことに加え、顧客のアジア進出に伴う生産移管が急速に進む中、同時多発テロ以降、航空機業界よりのロッドエンドベアリング等の航空機用ベアリングの需要が減少し、厳しい状況が続きました。その結果、売上高は24,001百万円、営業利益は452百万円と前中間期に比べそれぞれ6,226百万円（20.6%）の減少、387百万円（46.1%）の減少となりました。

欧州地域

欧州地域は、経済の減速傾向が見られる中で、ボールベアリング、及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移いたしましたがキーボード等の電子機器の不振があり、売上高は15,041百万円、営業利益は603百万円と前中間期に比べそれぞれ1,656百万円（9.9%）の減少、398百万円（39.8%）の減少となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループは、「財務体質の強化」を主要な経営方針とし、総資産の圧縮、設備投資の抑制及び負債の削減などを進めてまいりました。当中間連結会計期間における現金及び現金同等物の残高は11,850百万円と前連結会計年度と比べ2,326百万円（16.4%）の減少となりました。

当中間連結会計期間の各活動におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

業績の向上を強力に進めましたが、営業活動によるキャッシュ・フローは5,787百万円の収入となり、前中間連結会計期間に比べ、8,795百万円（60.3%）の減少となりました。

設備投資の支払いによる9,884百万円の支出等の結果、投資活動によるキャッシュ・フローは7,576百万円の支出となり、前中間連結会計期間に比べ、270百万円（3.4%）の支出の減少となりました。

また、短期借入金及び長期借入金の合計1,699百万円の増加等により、財務活動によるキャッシュ・フローは224百万円の支出となり、前中間連結会計期間に比べ、8,489百万円（97.4%）の支出の減少となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	59,013	98.7
電子機器	81,455	104.9
合計	140,468	102.2

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
 2. 金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

(2) 受注状況

当中間連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年 同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年 同期比 (%)
機械加工品	55,886	95.6	33,446	103.1
電子機器	79,679	104.4	23,672	103.5
合計	135,565	100.6	57,118	103.2

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
 2. 金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

(3) 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
機械加工品	55,665	92.3
電子機器	78,076	101.5
合計	133,741	97.4

- (注) 1. 金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 金額は、セグメント間取引の相殺消去後の数値であります。

3 【対処すべき課題】

(1) 経営の基本方針

当社グループは次の「五つの心得」を経営の基本方針としております。

- 従業員が誇りを持てる会社でなければならない
- お客様の信頼を得なければならない
- 株主の皆様のご期待に応えなければならない
- 地域社会に歓迎されなければならない
- 国際社会の発展に貢献しなければならない

この基本経営方針の下に、当社グループは「高付加価値製品の開発」「製品の品質の高度化」に積極的に取り組み、当社グループの実力を発揮出来る分野に経営資源を集中すると共に、「財務体質の強化」を中心とした企業運営の強化と社内外に対して解りやすい「透明度の高い経営」の実践を心がけております。

また、「環境保全活動」については、当社グループが世界各地で事業を展開する上で最重要テーマの一つとして従来から徹底した取り組みを続けております。

当社グループはこの会社経営の基本方針に基づき「徹底した一貫生産体制」「大規模な量産工場」「整備された研究開発体制」を世界各地で展開し、世界最強の総合精密部品メーカーを目指して収益性を高め、企業価値を引き上げることを目標としております。

これらを実現する為の課題を要約すると、次の様になります。

- ベアリング及びベアリング関連製品事業の一層の強化拡充をはかる。
- スピンドルモーター(流体軸受搭載を含む)及びファンモーター等の精密小型モーターを中心とする回転機器を、更に拡充しベアリング関連製品と並ぶ柱に育てる。
- 全ての製品について、高付加価値製品の比率を引き上げると同時に、製品の幅を広げ、より広範囲な市場に対応出来る様にする。

(2) 当面の課題

平成15年4月1日付けで、第1製造本部と第2製造本部を統合して「製造本部」を創設すると共に、R&D本部を発展的に解消して「技術本部」を創設いたしました。

目的は次のとおりであります。

1. 両製造本部を統合し一元化する事により、技術・ノウハウ・人材・資金等々の資源のより有効な活用をはかる。
2. 両製造本部の統合と一元化によりミネベアグループの競争力の要である「部品製造力」の一段の強化をはかる。
3. 技術本部の新設により多様化した市場のニーズに合致した新製品を、タイミングよく短時間で開発して市場投入を果たす。
4. 技術本部の新設によりR&Dプロジェクトを統括する機能を強化し、先端技術の開発と合わせて既存技術の更なる有効活用をはかる。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、提出会社は次の経営上の重要な契約を行いました。

平成15年8月に、松下電器産業株式会社との間で、両社の情報モーター四商品(軸流ファンモーター、ステッピングモーター、振動モーター及びブラシ付DCモーター)事業を統合し、情報モーター事業新会社を設立することについて基本合意し、契約書を締結しました。

5 【研究開発活動】

当社グループは、各種ボールベアリング及びその応用部品に代表される精密機械部品、ロッドエンドベアリング、高級ファスナーを始めとする航空機部品、また最先端の電子機器に使用される各種電子部品等の製造及び販売を行っており、それぞれの分野での研究開発は、当社及び世界に展開するグループ各社の技術部門間で相互に密接な連絡を取り効果的に進められております。

また、当社グループは軽井沢製作所、浜松製作所、タイ、シンガポール、中国、米国及び欧州の各拠点にR&Dセンターを有しております。

当中間連結会計期間におけるグループ全体の研究開発費は4,868百万円であり、この中にはタイ、シンガポールのR&Dセンターで行っている各種基礎材料の解析等、事業別に配分できない基礎研究費用124百万円が含まれております。

当中間連結会計期間における事業の種類別セグメントの研究開発活動は、次のとおりであります。

機械加工品事業

タイにおける研究開発体制の整備の一環として、国立大学に併設されているタイ国科学技術省と共通のテーマである産業廃棄物の有効利用に関して共同研究を開始致しました。

軽井沢製作所の主力製品であるボールベアリングにおきましては、引き続き超高耐食ベアリングの開発に取り組んでおり、またHDD用ピボットアッセンブリーに使用される高精度ベアリングにおきましても、特殊グリース及びオイル潤滑の開発を継続して行っております。

一方、流体軸受部品ではミネベア独自技術によるDLC(ダイヤモンドライクカーボン)コーティングが従来のスラストプレートに加えカウンタープレートにも応用可能となり、用途拡大に貢献しております。

当事業にかかる研究開発費は1,302百万円であります。

電子機器事業

技術本部浜松R&Dセンターでは、小型高性能モーターや磁性材料を、三次元CADとコンピュータシミュレーション解析技術等を使い開発しています。HDD用スピンドルモーターに使われる高性能Ne-Fe-Bボンド磁石はHDDの小型・高性能化の要求に合わせ、高寸法精度・超薄肉磁石に適した製造方法を開発しています。

一方、光デバイス関連部品では、携帯電話やデジタルカメラのカラー液晶用バックライトの高性能化・高機能化に取り組んでおり、業界最高輝度のバックライトや薄型両面液晶用に加え、超薄型のバックライトを開発しました。LEDバックライトは今後、携帯電話やデジタルカメラ、PDAだけで

なく、ビデオカメラやカーナビ、モバイルTVなどの機器にも用途が拡大していくものと期待されます。

デジタル液晶TVのバックライトに使われています冷陰極ランプ用インバータ点灯回路は、40インチまで対応可能な高効率・低価格インバータの開発を行っています。

大森製作所では、高精度・高信頼性を持つ回転センサーであるレゾルバの応用製品ならびに、ブラシレスDCモーターの新制御・駆動方式の開発等を行っています。

また、防衛庁の次期大型機として開発が進行しているP-X(次期哨戒機)/C-X(次期輸送機)用として、より高度な要求に応えられる各種装備品の開発を行っています。

その他、各種小型モーターについてはドイツの開発拠点と、軽井沢製作所が共同して自動車関連モーター、高信頼性ファンモーター等の開発を進めています。

当事業にかかる研究開発費は3,442百万円であります。